

IGS国際シンポジウム

トランスジェンダーが 問うてきたこと 身体・人種・アイデンティティ

お茶大は2020年度からトランスジェンダー女性の入学受け入れを表明している。それをきっかけに日本でもトランス女性をめぐる激しい議論が巻き起こった。トランスジェンダーが可視化されることにより、従来の「女性」ジェンダー、セックスの考え方に画期的な変容の可能性がもたらされると同時に、身体、アイデンティティ、セクシュアリティをめぐる複雑なパワー関係も浮き彫りになりつつある。本国際シンポジウムはトランスジェンダー研究の第一線で活躍している研究者が集まり、トランスジェンダーの歴史や論争が突きつけてきた課題を議論する。

基調講演者

スーザン・ストライカー (イエール大学、米国)

**How "Transgender" Travels:
Thinking About Gender Variance in a Global Context**

総合司会 申琪榮 (お茶の水女子大学)

パネル司会 石丸径一郎 (お茶の水女子大学)

挨拶 石井クンツ昌子 (お茶の水女子大学)

パネリスト

清水晶子 (東京大学) **Imported Hatred?: Japan's Transphobic Feminism in Transnational Context**

井谷聡子 (関西大学) **On the 'Feminist' Discourse of Trans-exclusion from Sport**

ナエル・バンジー (トレント大学、カナダ)

Troubling Trans: Necropolitics, Trans Bodies, and Genealogies of Governance

日時: 2019年 **12月15日** ① 14:00~17:30
会場: お茶の水女子大学共通講義棟1号館304室

要事前申込

QRコードがIGSのHPからお申し込みください

同時通訳あり

定員120名



主催: お茶の水女子大学ジェンダー研究所 (グローバル女性リーダー育成研究機構) <http://www2.igs.ocha.ac.jp>

共催: 東京大学清水晶子研究室、科研費 挑戦的萌芽研究「性的少数者の政治と多様な諸身体の連帯および共存をめぐる現状分析と理論構築」

